

問に答ふ

注 水彩畫に關係あるものに限る。○の印は答一般に對して利益なきものは載せず

■時節柄繪具にカビを生じ又は上面ヘリスリンを吹き出し時により流出す、如何にせばよろしきや(驚技)◎毎日繪具を使用すればカビの生ずる患なし、若しカビの出し時は清水にて拭ひ去るべし、又繪具の流し出すは多量の濕氣を含むためなれば火鉢の抽出にても入れて乾燥させるをよしとす■一 文房堂の割引は定價の何割なりや■二 大橋先生の御住所(彩郊子)◎一 繪具類は割引なし、他の品は一割引の約束なり但二三の例外はあるべし■二 相摸國鎌倉雪ノ下■簡易透視畫法は何時發行になるや(A M 生)◎起稿中、發行日未定■エチユードの完全なるものはタブローといふ事が出来ますか(大阪笑波)○區別あり、乍併共に美術品たるは勿論なり■一 洋畫各大家の専門とせらるゝ繪畫の種類を知りたし■二 水繪にて人物の肖像を畫く手段を知りたし■三 『みづゑ』二十八、鉛筆畫の描法中その削り方を今少しく詳しく知りたし(くどい生)◎一 其人の名を擧げて問はれよ■二 木炭なり鉛筆なりにて充分似せる丈の力がなくては水彩にては描けぬ、水彩にて描くには初めは臨本などにて着彩の法を覺

え後ち實物について寫生したまへ■三 あまり尖を鋭くせず平たく太い線の引けるやうに片面丈け削つて置くと強い力ある線も描けるし太い平な線も引ける、太く描く時細く畫く時一々小刀にて尖を削るには及ばぬ■會員にして友人の作品を送付して批評を受くるを得るや(A M 生)

讀者の領分

注 長女及水彩畫に無關係のものには御斷り。◎印は編者の答。投書の要點のみを掲ぐ

■『みづゑ』表紙の色の名を毎號明示されたし(M O 生)◎原色と同じ色が出ぬため製本間際に至らざれば不明、且複色にして色の名を示すに困難なり■一 東京又は外國の苦學畫家の消息を知りたい■二 田代二兄君よ御住所不明につき御知らせを乞ふ■三 諸先生が外國へ御出になつた時分のことを本誌へ出して下さい(大阪笑波)■度々『みづゑ』口繪の三色版がドーの石版が宜いのと希望を云ふて居らるゝが僕は失張り三色版の方が優等と思ふから此儘に繼續を願ひたし(霞汀生)■僕はこの間文房堂で買物しようと思つて規則通り往復ハガキで照會したら返事どころか何の音沙汰もありやしない、それから店員の不勉強、大面、

等は池田家先祖傳來だそうて(田舎物)◎これは宇都宮の消印あり、豫て文房堂の注文を望む■僕は畫架、傘杖、寫生道具携帶用袋等を譲りたし、御希望の方より下名へ御照會あれ(福岡市外春吉三番町掘方稻垣子)■自筆水彩畫繪葉書御交換願上候着次第直ちに返信致すべし(大阪市南久寶寺町二丁目植實方朱翠)■來年奈良で屹度講習を開いて下さい(京都玉水生)■口繪は美しき三色版と極められたし、又博覽會出品の幹部各位の水彩畫を口繪にせられたし(M O 生)◎出品畫は手許になきもの多く且面積大なる故三色版として不結果ならん

編者より

◎尾張林氏へ こんなボチ／＼流て描かずにモット伸びやかに繪具を充分つけてお描きなさい、又色彩が寒く物質が明かに見えかねせん◎松岡氏へ 樹木は結構であるが繪に奥行が見えぬ、遠景の研究が足らぬ故であります

▲去月八日小石川小日向水道町出火の際近火御見舞狀を給はり候諸君に謝す幸に無事御安心ありたく候

日本水彩畫研究所